

ネピアアテンダー ケア通信 Vol.26

発行元: 王子ネピア株式会社
ケアサポート事業本部
東京都中央区銀座5-12-8
王子ホールディングス 1号館
編集・制作: 株式会社ジェイ・キャスト
発行人: 取締役 ケアサポート事業部長 山下千晶
発行日: 平成31年3月15日



介護業界の現在

認知症を患い、不安で1日に50回も息子の携帯に電話をするA子さん。息子から発狂しそうだと相談された。菅原さんは息子に携帯を新たに購入し、その番号を母親に伝え、不安なときはそれに連絡するようにした。

実はその携帯は菅原さんが預かるのだ。A子さんから電話があったら、すぐに介護スタッフがA子さんの元を訪ねる。早く話を聞いてあげれば不安は大きくなるはずなのに、他の周辺症状も出てくると、息子も助かる。「僕らの目標の一つに、困ったが増幅しないように手をさしのべ安心してもらおう」ということがあります。これは僕らが利用者の近くに住んでいるからできるのです。」

「困った」を増幅させない

利用者も介護職員も同じ団地住民

神奈川県藤沢市にある団地に小規模多機能ホームを設立した「ぐるんどび」。代表の菅原健介さんをはじめ8人の介護職員も同じ団地に住む。団地や周辺住民を「長期的な関係性の中でサポートする。そんな既存の施設にはない視点から、独特の介護現場を語ってもらった。(文:西所正道)



株式会社ぐるんどび代表取締役 菅原健介氏(すがわら・けんすけ)

大学卒業後、広告代理店勤務を経て、2015年、「ぐるんどび一駒寄」を開設。利用者は29人(うち団地居住者10人)、半数以上が要介護度3~5。2018年、かながわ福祉サービス大賞受賞。理学療法士。



「困った人を助ける」「思いやりを甦らせる」

「困っている人がいたら助けてあげる。一昔前、日本に普通にあったであろう思いやりを、介護というツールを使って、再び地域に根づかせたいと菅原さんは思っている。ぐるんどびのスタッフは、菅原さんの子どもが通う学校のママ友、パパ友が多い。当然、子育て中だから仕事との両立という問題に直面する。「実は、職員の困り事を利用者が手伝って支えてくれています。待機児童に認知症の人が食べさせたり、保育園に要介護3の人が迎えに行ったり」やりたいたいことを支え

るのも、ぐるんどびが大事にしている柱だ。認知症などの病気になることで、俳句や水泳、フラダンスといった趣味の会に行けなくなった利用者には、趣味を再開する手伝いをしている。「周りの方が、病気のことやネガティブに受け止める誤解を修正しながら、職員がうまくつないでくれます」

食事も、ぐるんどびではほとんど外食だ。職員が車で外に連れ出し、好きなものを食べる。「要介護になる前は、自分の好きなものを選んで食べていたはず。なのに要介護になった途端にみんなと同じ食事。これってどうなの？」

今後、もしカフェやフィットネススタジオなどを、利用者が必要だと要望すれば、それを運営するNPO法人をつくることも考えているという。「介護職に利用者が合わせるのではない。利用者自身が楽しく生きるために介護職や医療職の力を活用する。そんな関係になるのいいと思います」

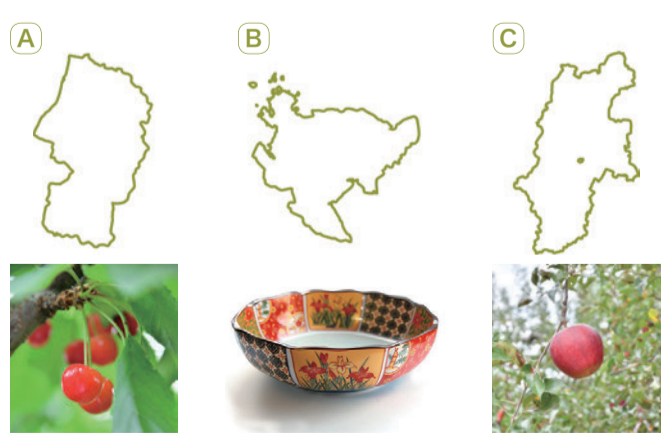
注目のトピックス

- 訪問介護の質向上へ アプリを開発 全国へ**
東京海上日動ベターライフサービスは、三菱商事の訪問介護事業所向けアプリ「けあピアノート」の開発に協力。導入後、業務にかかる時間と労力を大幅に軽減し、サービス改善の効果を上げたことから、全国の事業所への展開を図る。
2019/2/22 シルバー新報
- 外国人受け入れへ組合設立 むつの介護施設など**
青森、宮城、福島県の3県5社会福祉法人が、外国人介護人材の受け入れ事業を行う「みちのく社会福祉協同組合」を設立。4月に新設される在留資格(特定技能)の活用も視野に入れている。
2019/2/25 Web東奥

脳のアンチエイジング

地理クイズ これは何県?

問題 下のA~Cの白地図は下の①~⑧のどの県でしょうか? ヒントは各県の特産品です。
①岩手県 ②大分県 ③山形県 ④長野県 ⑤奈良県
⑥佐賀県 ⑦神奈川県 ⑧愛媛県



答えは裏面にあります。

こんにちは、ネピアです

職場のお話、聞かせてください。

ご利用者の意思・尊厳を守る

◎介護老人福祉施設 まきの苑(奈良県五條市)
苑長(社会福祉士) 介護支援専門員 介護福祉士 仲村一恵さん

福祉への思いを大切にしている苑長の仲村さん

奈良県五條市の介護老人福祉施設「まきの苑」は、特養の多床室棟、認知症専用棟、ユニットケア棟の3棟(定員204床)からなります。パート職員を含め177人を統括する、勤続20年の仲村一恵苑長にお話を聞きました。

「私自身が大病で障がいを得たことから、寝たきりの方や認知症の方を支援したいと思って、ここで働き始めました。その思いが私の行動の起点なので、ご利用者の意向を聞きながら、

「苑内でよく仕事をしています。催事は、ご利用者さん目線の企画になっていないと喜んでいただけません。本当に楽しんでいただけるものか、良かれと思って勝手に判断していいかななどの客観的視点が必要です。言葉に

「苑内ではよく仕事をしています。催事は、ご利用者さん目線の企画になっていないと喜んでいただけません。本当に楽しんでいただけるものか、良かれと思って勝手に判断していいかななどの客観的視点が必要です。言葉に

ユニットの温かい雰囲気をつくりだすスタッフの笑顔

「法人全体で5年後のビジョンを定めました。それを各事業所が毎月の目標に落とし込むことで、職員も一丸となっていてます。今年は、ベトナムとフィリピンから職員を迎えるので、外国人でも働きやすくするために業務の見直しをしています」

仲村苑長の言葉には、仕事への信念とやりがいがあふれていました。

地域の声を聞いて共に歩む



奈良県五條市で、25年にわたって地域と向き合いながら、介護サービスを創出してきた社会福祉法人正和会。創業以来、福祉の理念を大切にされています。理事長の飯田明子氏を、王子ネピア社長の用名浩之が訪ねました。

用名 緑に囲まれた素晴らしい環境ですね。飯田理事長は、この業界に入られて長いのですか。

飯田 20年になります。五條市で生まれ育ったのですが、厳格な親から離れたくて、東京の大学を選びました。卒業後も帰るつもりはありませんでした。

用名 戻られた理由は何でしょうか。

飯田 創業理事長は、私の父です。事業家で県議会議員も務めていたことから、地域の要望に応えて、1993年に社会福祉法人を設立しました。



社会福祉法人正和会 理事長 飯田 明子氏

翠年、特別養護老人ホームを開設し、母が施設長になりました。ところがその後、母が病に倒れたため、正和会に入る決意をしました。

用名 そうでしたか。20代で福祉事業に携わられたのですか。

飯田 はい。何もわからずに飛び込みました。1998年に老人保健施設がオープンし、特養に認知症専用棟を増床、2007年には、ユニットケアの特養、グループホームも開設しました。信頼できる幹部や職員と一緒に

に、地域と向き合いながら無我夢中で取り組んできました。父の退任後、理事長を継いで今に至っています。

理念は「長幼の序」と「笑顔と言葉遣い」

用名 ご苦労も多かったでしょうね。

飯田 人手不足が悩みですが、運営にあたって譲れないものがあります。それが、理念にしている「長幼の序」「笑顔と言葉遣い」です。ご利用者主体に考え、守ってきました。ご縁を大切にしたいので、少し厳しすぎるくらいに言っています。

用名 働きやすい職場の指標となる厚労省の「プラチナくるみん」や、女性が活躍しやすい「見えるぼし」企業認定などを取得されていますね。

飯田 働き続けたいと思ってもらえる職場になくはないですね。できることは何でもやってきた結果です。

用名 様々な地域貢献もなさっていますね。排泄に関して多くのご意見を学べる「むつき庵」は有名ですが、こちらは「ミニむつき庵」を運営されているのですか。

飯田 地域の方のおむつや排泄にまつわる相談の場を作りたいという職員の声で作りました。イオンさんの催事のときにも開設します。

どんな世代も興味を持てる法人に

用名 介護や福祉についての疑問や不安を相談できる「ふくろう相談室」も設けられていて、地域の方は心強いですね。また、「未来塾」を主宰されていますが、どのような活動ですか。



王子ネピア株式会社 代表取締役社長 用名 浩之

飯田 これも職員のアイデアで、シニア世代の生きがいづくりや世代間交流が目的です。陶芸や絵手紙、手芸などの教室に、材料費だけで参加でき、講師にもなれます。

用名 ほかに子ども対象のイベントやフィットネス、喫茶など、次々に形にしていけるパワーに目を見張ります。

飯田 ノリでやってきましたが、これという失敗はありません。どこかで楽しいと思えることが大事です。事業や地域活動が広がるなかで、最近しみじみ思うのですが、人はつながっていません。孫が喜ぶとお年寄りも喜んだり、誰かの安心につながると隣の人の安心に変わったり、それがつながっていったらご利用者の安心になるのです。

用名 地域に根ざしているからその言葉です。

飯田 幅広い活動のお陰で、たくさんのお意見を聞かせてもらえます。どの世代からも興味を持った人でありたい。そんな福祉の形でも、いいのかなと思います。

用名 訪問介護事業にも力を入れていらっしゃるし、活動が展開していく勢いを感じます。

飯田 これまで培ってきたノウハウを持って、その方の状態に合わせたケアを提供していきたい。「ここがあって良かった」と思ってもらえる正和会でありたいです。

テnderサポート便り 共創介護の現場から vol.17

おむつ勉強会の実施と排泄委員会に参加

王子ネピア東京支店 市川綾由美

医療法人社団永生会の介護老人保健施設イマジン(東京都八王子市)は、在宅復帰、自立支援をめざし、地域で安心して生活が送れるように、一人ひとりに適したリハビリテーションや日常生活の支援をしています。

イマジンは認知症専門棟36床を含む全130床、通所リハビリテーション定員50名からなり、在宅と施設を結ぶ役割を担っています。

同施設では、種類が豊富であるネピアの紙おむつ、パッドを使用していますが、利用者様ごとに使っているおむつ等をデータ化しています。そのため、どの職員がおむつ交換に入っても、迷うことなく紙おむつを選び、その人に適したパッドをあてることができています。他職種とも連携を図り、褥瘡の予防に努め、安心して生活ができるように心がけています。

また、紙おむつの発注方法にも工夫があり、次回の納品までの必要数量を常に把握できるようにして不足を防ぐほか、発注担当者が不在でも他の職員が発注できる仕組みができています。

ネピアが注力しているのは、定期的な紙おむつの当てる勉強会の実施と、月1回の排泄委員会に参加して現場の皆様から状況を伺うことです。お困り事には当てる方などのご提案をします。同委員会では平均介護度の変動や、実績表から使い方の変化についても意見交換を行います。

●イマジン 下出排泄委員長からのメッセージ
年に数回、研修をみんなで実施して、正しいおむつの当てる勉強会をしています。職員一同、同じ当てるができるように心がけております。親切に職員の声聞いて勉強会や発注方法など反映してもらっているのが助かっています。

1997年、東京都八王子市に設立された老人保健施設イマジンの外観



排泄委員会の様子



スタッフの皆様。後列左から2番目が下出委員長

10人のプロが笑かします 全日本おむつ団 all nippon omutsu dan

ボランティア演芸会

東京都西多摩郡瑞穂町 デイサービスセンター 不老の郷

王子ネピアでは、東西の有志演芸家・エンターテイナー10名による「全日本おむつ団・ボランティア演芸会」を支援しています。

昨年の12月21日、クリスマスモードが漂うなか、一般応募にて当選された「デイサービスセンター不老の郷」にて、全日本おむつ団メンバー・古今亭志ん五師匠によるボランティア演芸会が開催されました。田中理事長による開会のご挨拶のあと、出陣ととも志ん五師匠が入場されると、盛大な拍手と「志ん五師匠若い！素敵！」との歓声に会場が包まれました。扇子・手拭いを使った形態模写やパネルを使った言葉遊びは、志ん五師匠と観覧された皆さんとの掛け合いで大いに盛り上がり、そこからの小唄、手品、歌で会場がさらに温まったところで、「ふろうのさと」というお題の謎かけと、大盛況のなか進んでいきました。終了後には記念撮影タイム。その後も志ん五師匠が観覧された方一人ずつに声をかけ、握手をしてまわられるなど、最後まで笑顔の絶えない、心温まる一日となりました。